

原遺跡 15

— 第 27 次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1168集

2012

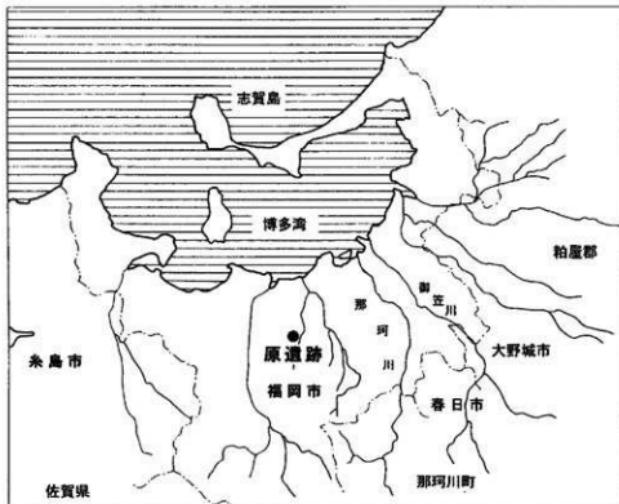
福岡市教育委員会

HARA

原遺跡 15

— 第27次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1168集



遺跡略号 HAA-27

調査番号 1027

2012

福岡市教育委員会

序

海に開かれたアジアの交流拠点都市づくりを目指す福岡市は、大陸文化の受入口として古来より繁栄してきました。市内には貴重な文化遺産が数多く残されています。それらを保護し、後世に伝えることは私たちの義務であります。

市内には調査を実施した本遺跡を初め、数多くの遺跡が分布しております。本市教育委員会では、遺跡地内で行われる開発については、事前に発掘調査を実施し、記録保存によって後世に伝えるよう努めています。

本書は、市道長尾橋本線拡幅工事に先立って、平成 22 年度に実施した原遺跡第 27 次調査の成果を報告するものです。調査では戦国時代の館の堀跡を検出しました。

本書が、市民の皆様の文化財保護に対するご理解の一助となるとともに、学術研究、文化財保護の普及啓発活動に活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、ご協力をいただきました道路下水道局建設部西部道路課をはじめとした、関係各位に対して、厚く感謝の意を表します。

平成 24 年 3 月 16 日

福岡市教育委員会
教育長 酒井 龍彦

凡　例

- (1) 本書は、福岡市教育委員会が市道長尾橋本線道路拡幅に伴い、福岡市早良区原 7 丁目地内で、平成 22 年(2010)度に調査を実施した原遺跡第 27 次調査の報告書である。
- (2) 発掘調査は上記の主体により行われ、調査は山崎龍雄が担当して行った。
- (3) 遺構・遺物の実測と遺構の写真撮影は山崎が、遺物の写真撮影は力武卓治（埋蔵文化財センター文化財教育普及専門員）が行った。
- (4) 本書に使用した図面の浮き書は山崎が行った。
- (5) 本書に使用した方位は磁北であり、真北とは $6^{\circ}18'$ 西偏する。又、Fig3・4 で使用した座標の数値は世界測地系である。
- (6) 本書 Fig.1 の調査区位置図は平成 6 年 3 月作成の「福岡市文化財分布地図 西部 1」を使用した。
- (7) 土層・遺物の色調の記録については新版標準土色帖を使用した。
- (8) 調査に係る記録類・出土遺物は埋蔵文化財センターで収蔵保管し、活用していく予定である。
- (9) 本書の執筆・編集は山崎が行った。

本文目次

第1章 はじめに	5
1 調査に至る経緯	5
2 調査の組織	5
第2章 立地と歴史的環境	6
1 立地と各調査の概要	6
2 歴史的環境	6
第3章 調査の記録	8
1 調査の概要	8
2 遺構と遺物	8
①溝状遺構	8
②その他の遺構出土遺物	13
3 まとめ	14

挿図目次

Fig.1 第27次調査区位置図 (1/4,000)	4
Fig.2 原遺跡と周辺の遺跡 (1/50,000)	7
Fig.3 長尾橋本線路線図 (1/1,000)	8
Fig.4 遺構全体図と調査区土層図 (1/200・1/60)	9
Fig.5 SD001と土層図 (1/80・1/60)	10
Fig.6 SD001出土遺物1 (1/3・1/2)	11
Fig.7 SD001出土遺物2 (1/3・1/1)	12
Fig.8 方形館溝配質図 (1/1,000)	14

図版目次

PL.1 (1) 第27次調査区遠景 (東から)	(2) 調査区全景 (西から)	15
PL.2 (1) 第1区全景 (東から)	(2) 第2区全景 (東から)	16
PL.3 (1) I区 SD001 (北東から)	(2) II区 SD001 (西から)	17
PL.4 (1) SD001-1号南壁土層 (北から)	(2) SD001-1号土層 (南から)	
(3) SD001-2号土層 (東から)		18
PL.5 (1) SD001-3区遺物出土状況 (西から)	(2) SD001-3区遺物出土状況 (南東から)	
(3) SD001-3区遺物出土状況 (東から)	(4) 1区東壁北側土層 (西から)	19
PL.6 (1) 1区北壁東側土層 (南から)	(2) SD001出土遺物 (縮尺不統一)	20

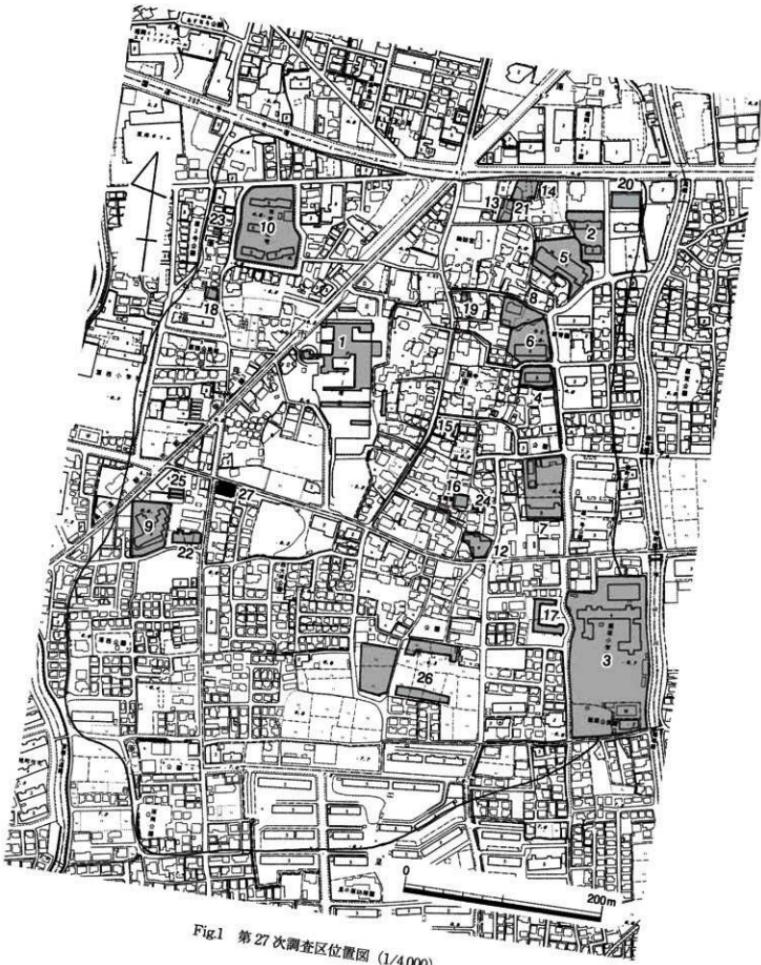


Fig.1 第27次調査区位置図 (1/4,000)

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯

福岡市は現在、街路事業として都市計画道路長尾橋本線の道路拡幅事業を行っている。平成22年3月17日付道西第366号で、道路下水道局道路整備部西部道路整備課（現建設部西部道路課）より、計画地内における埋蔵文化財の事前審査依頼が提出された。これを受け審査を行った結果、計画地内に原遺跡、原東遺跡の2遺跡が範囲にかかることから、確認調査を行い、遺跡が確認された地区については、記録保存のための発掘調査が必要であるとして回答した。平成22年5月27・28日、用地取得が終了し試掘が可能になった部分について確認調査を行った。その結果一部で遺構を検出したので、その範囲について発掘調査が必要であるとして協議を行い、平成22年度に道路上下水道局より調査費用の令達を受けて行うこととなった。本調査は平成22年（2010）10月8日～11月30日まで行い、報告書作成の整理作業は平成23年度に行った。

調査にあたっては、原局の道路上下水道局建設部西部道路課から多大の協力を賜った。また周辺住民の皆様には調査期間中ご理解を得、調査を無事に進めることが出来ました。文末ではありますが、記して感謝の意を表します。

2. 調査の組織

調査の組織は以下のとおりである。

調査委託	福岡市道路下水道局建設部西部道路課
調査主体	福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財第2課
調査総括	文化財部埋蔵文化財第2課長 田中壽夫 埋蔵文化財第2課調査第2係長 菅波正人
庶務担当	埋蔵文化財第1課管理係 古賀とも子
事前審査担当	埋蔵文化財第1課事前審査係 阿部泰之
調査担当	埋蔵文化財第2課主任文化財主事（現埋蔵文化財センター） 山崎龍雄
調査作業	浅井伸一 石井清子 大坂由布子 国友和夫 真田弘二 高木美代子 徳永洋二郎 西美由喜 原田由紀子 濱野幸男 平江裕子 広瀬公則 馬奈木留雄
整理作業	平川敬治 増永好美

遺跡略号	調査番号	調査地番	申請面積	調査面積	調査原因	調査期間	調査担当
HAA-27	1027	福岡市早良区原7丁目地内	4,455 m ²	295 m ²	道路拡幅	2010.10.08～11.30	山崎龍雄

第2章 立地と歴史的環境

1. 立地と各調査の概要

原遺跡は福岡市の西部の早良区平野部北側に位置する。国土地理院の福岡西南部（1/25,000）で右側より14.5 cm、上側より11.5 cmの位置にある。遺跡は室見川支流の金屑川東側の微高地上に立地する。遺跡の範囲は南北長約900m、東西幅約700mで、微高地東側には金屑川支流の稻塚川が流れ、その東側は原東遺跡が立地する。遺跡の標高は6～7mを測る。遺跡の現況は宅地化が進み、古い集落に新興の住宅や商業店舗が混在し、一部に農地が残る現況を呈している。

今回調査した第27次調査地点はこの原遺跡の西側に位置し、周辺の調査地点としては北側に昭和51年に行われた第1次調査の原談儀遺跡・南西側で原8次調査・21次調査・25次調査などがあり、弥生時代から中世にかけての遺構・遺物が検出されている。

2. 歴史的環境

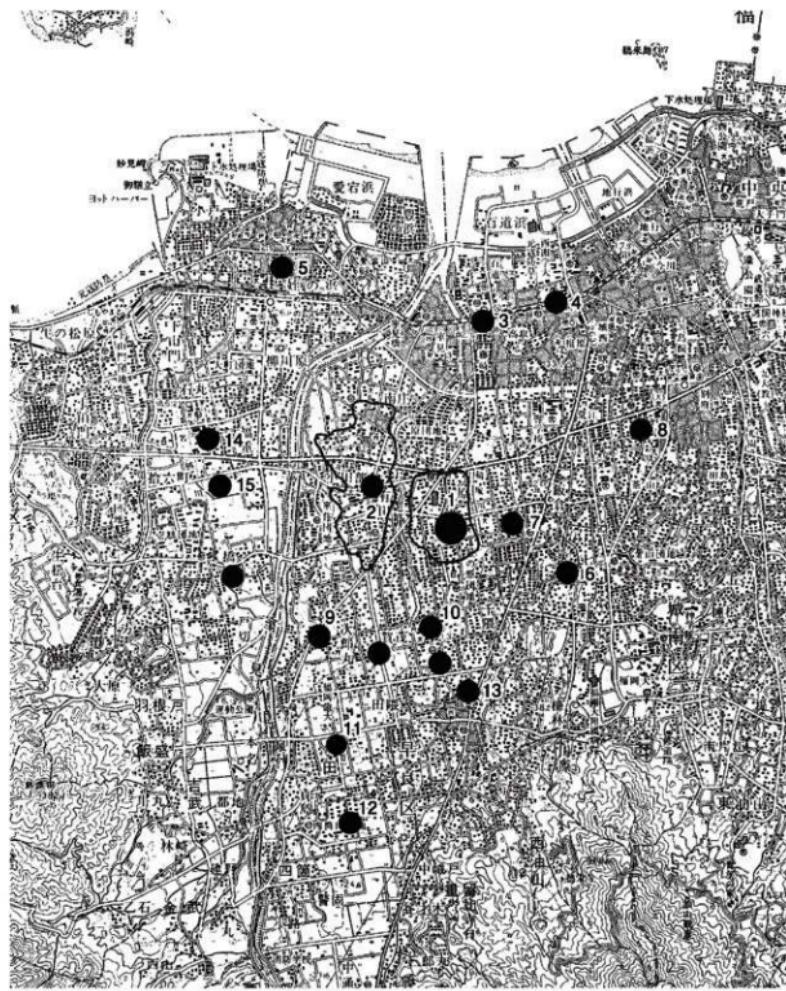
原遺跡のある早良平野北側低地部、室見川中・下流域を中心に一帯の歴史的環境について述べる。周辺は福岡市でも住宅地として発展が著しい地域で、それに伴って発掘調査も多く行われている。

旧石器時代から縄文時代には有田遺跡群、次郎丸遺跡、田村遺跡、免遺跡などがある。旧石器時代は有田遺跡群が代表として上げられる。最大標高15mの台地の各地点46か所（註1）で遺物が出土している。時期は後期旧石器時代後半期のもので、ナイフ形石器、尖頭器、台形石器、剥片、石核などが確認されている。縄文時代は有田遺跡の第5次調査、海岸砂丘部の西新町遺跡で前期曾畠式土器が出土している。縄文時代晩期では次郎丸高石遺跡が上げられる。弥生時代は遺跡が平野一帯に拡大し、有田遺跡、飯倉遺跡、藤崎遺跡、西新町遺跡、姪浜遺跡などで壇棺墓を主体とする大規模な墳墓群が調査されており、有田遺跡や飯倉遺跡では壇棺墓から青銅器の副葬品が発見されている。有田遺跡では前期の環濠集落があり、有田遺跡が早良平野中・下流域の拠点集落となる。

古墳時代になると、海岸部の藤崎遺跡では三角縁神獸鏡を持つ方形周溝墓、姪浜地区では五島山古墳が作られ、東側の飯倉丘陵では後期の古墳群、有田遺跡でも数は少ないが古墳が造営される。前方後円墳が数は少ないが、平野部と丘陵部に築かれる。平野内陸部の重畠地区では中期の埴輪を伴う押塚古墳が築かれる。押塚古墳は全長70mを測り、早良平野で最大の古墳である。後期になると油山・長垂・飯盛山山麓には群集墳が多数築かれる。古墳時代の集落では、平野各遺跡で朝鮮半島系の影響を受けた遺構・遺物が出土する。藤崎遺跡では古墳時代前期の竈付き住居が、梅林遺跡でも朝鮮半島系のオンドル構造を持つ住居が検出されている。

古代から中世は有田遺跡群で大型建物群が見つかり、早良郡衙や那津官家の一部かと推定されている。また遺跡の北側に古代の官道ラインが推定されている。中世は大規模な集落が有田遺跡、田村遺跡、次郎丸遺跡などで調査されている。海岸部の姪浜の愛宕山、内陸部の飯盛山には経塚が発見されている。油山山麓では山岳寺院の天福寺があり、戦国時代筑前守護の大内氏・大友氏の時代、有田遺跡では小田部氏の里城と伝承がある小田部城が、荒平山山頂中心に早良郡を治めた安楽平城、対岸の飯盛山では飯盛山城が築かれる。

註1 吉留秀敏「有田・鄭阿・比恵遺跡における旧石器資料の報告」『市史研究ふくおか 第5号』2010年福岡市博物館市史編さん室



1. 原遺跡	2. 有田遺跡群	3. 藤崎遺跡	4. 西新町遺跡	5. 姪の浜遺跡
6. 飯倉 A 遺跡	7. 原東遺跡	8. 別府遺跡	9. 次郎丸遺跡	10. 免遺跡
11. 田村遺跡	12. 西園遺跡	13. 野芥遺跡	14. 稲六町平田遺跡	15. 橋本一丁目遺跡

Fig.2 原遺跡と周辺の遺跡 (1/50,000)

第3章 調査の記録

1. 調査の概要 (Fig.3・4, PL.1・2)

調査地は早良区原7丁目地内、原から飯倉に抜ける長尾橋本線の道路拡幅部の調査である。用地買収が終わり、建物が撤去した部分で試掘を行い、遺構が検出された部分について調査を行った。調査対象範囲は東西長約30m、南北幅15mである。周囲が道路・住宅であるため、安全に配慮を加え調査を行った。調査は廃土処理を場内で行ったので、東西方向で半分ずつ反転して行った。東側をI区、西側をII区とする。

調査は2010年10月8日から開始し、11月30日に終了した。調査面積295m²である。調査地は以前のRC造建物工事や、解体時の基礎撤去による擾乱をひどく受けしており、遺構面は東側と中央部の一部にかろうじて残る程度であった。遺構面の深さは東側で0.7～0.8mを測る。基礎擾乱部は2m以上掘削しても遺構面は確認出来なかつた。遺構面までの堆積状況は上面から0.1～0.2m厚のパラス・碎石、その下は0.4m程の真砂土（客土・盛土）、0.15m前後旧水田土、0.05～0.1mの黒褐色粘質土（遺物を少量含む）、遺構面の灰オリーブ色（7.5Y6/2）粗砂礫混じり粘質土となる。この面は砂礫層となる部分もある。その下は暗灰黄色（2.5Y5/2）粗砂礫となり湧水がひどくなる。遺構は遺構面の残る部分で検出した。東側では黒い埋土の小ピットを多数検出したが、大半は植生痕で、明確な遺構は南北から東西に曲がる溝1条のみであった。

2. 遺構と遺物

① 溝状遺構

SD001 (Fig.5～7, PL.3～6)

I区南側から北に延びて、2区方向に直角に曲がって西に延びる溝である。かすかに残る遺構面部分で検出したが、基礎擾乱により破壊を受けた部分も多く残りは悪い。確認規模は東西長約20m、南北幅は約9mである。溝幅は2～3m、深さは0.7mを測る。溝断面は逆台形で底面は水が流れたのか凹凸がある。埋土は南壁では上

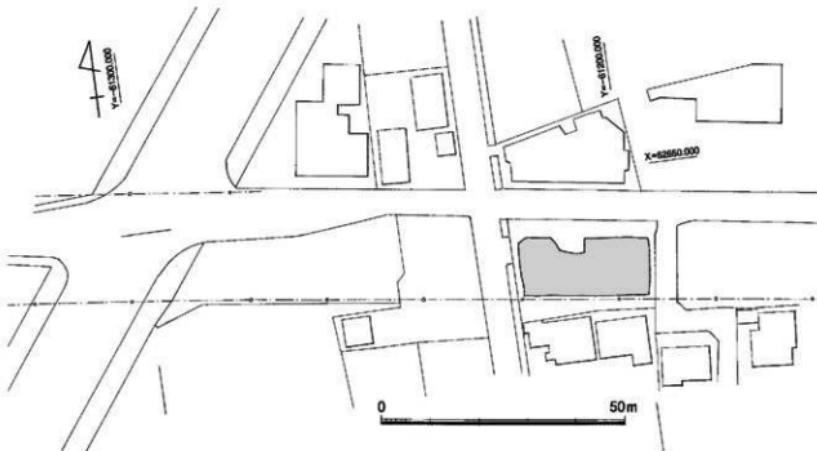


Fig.3 長尾橋本線路線図 (1/1,000)

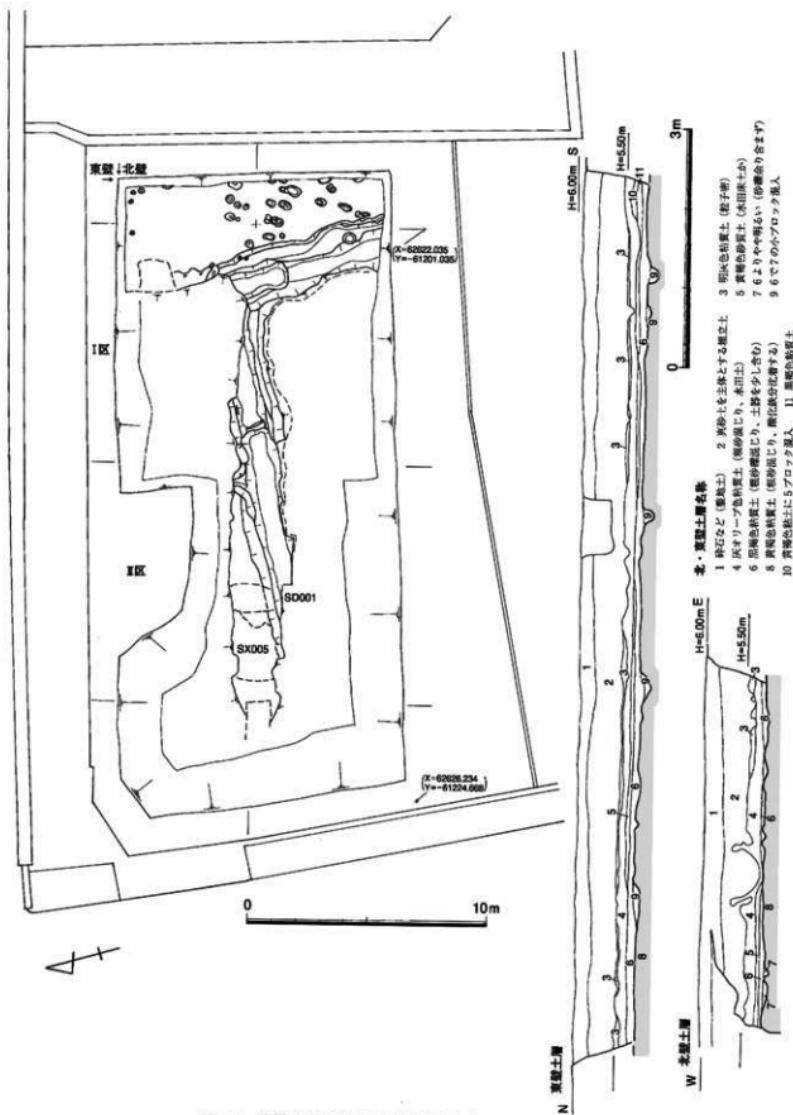


Fig.4 遺構全体図と調査区土層図 (1/200・1/60)

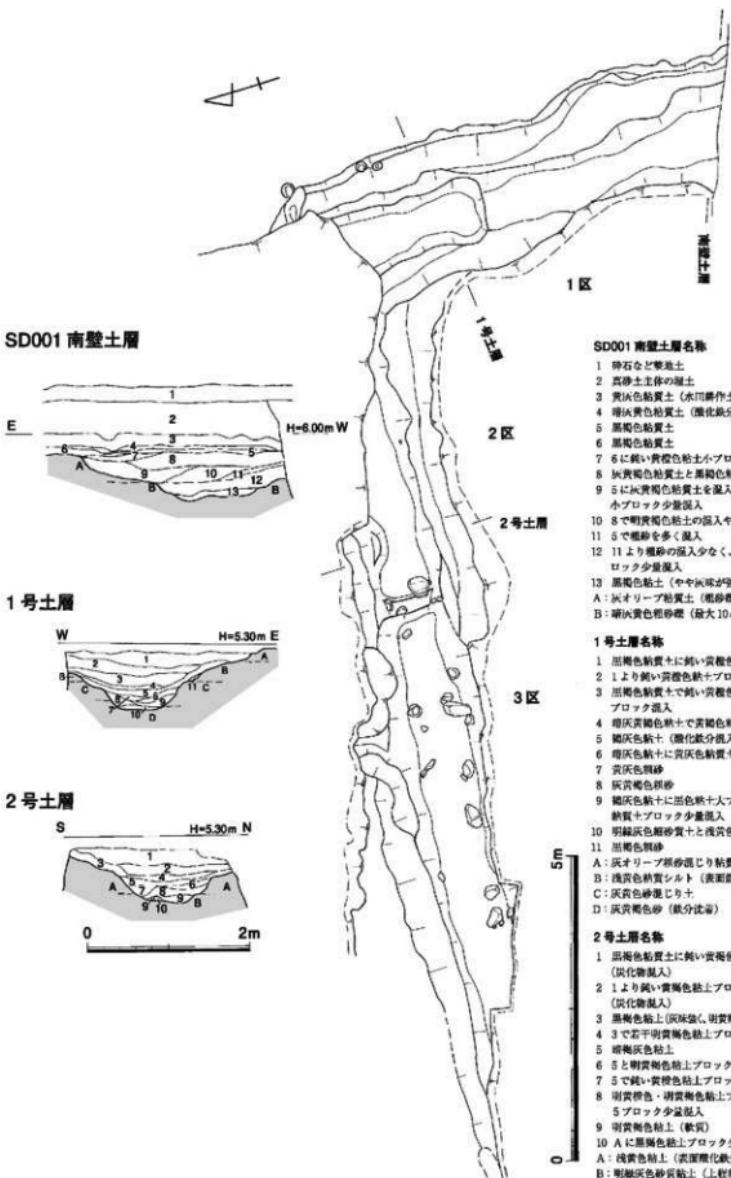


Fig5 SD001 と土層図 (1/80・1/60)

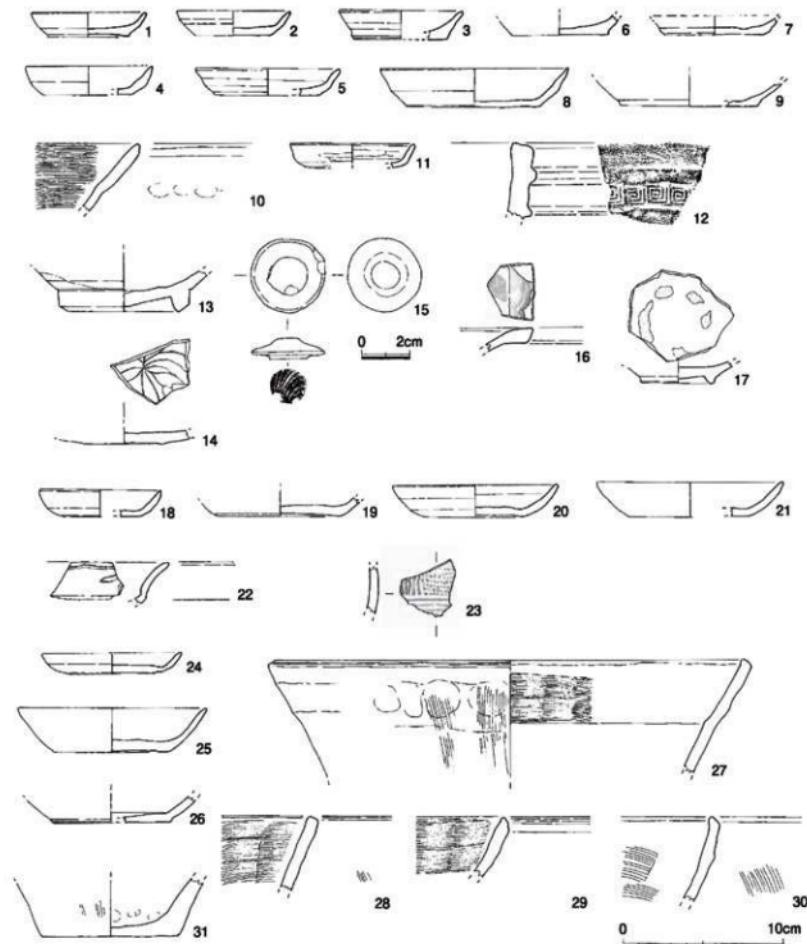


Fig.6 SD001 出土遺物 1 (1/3・1/2)

～中層は黒褐色粘質土から灰黄褐色粘質土、下層は黒褐色粘土で粗砂を混入する。1号土層では上層が黒褐色粘土、中層は黒褐色から暗褐灰色粘土、下層は暗灰色から褐灰色粘土。2号土層では上層が黒褐色粘土、中層は暗灰褐色粘土、下層は壁面の崩落土か明黄褐色粘土が主体となる。下層はグライ化し、粗砂などを含み、淡水性の貝が出土していることから滯水があった状況を示す。南西側の第 22 次で検出した溝

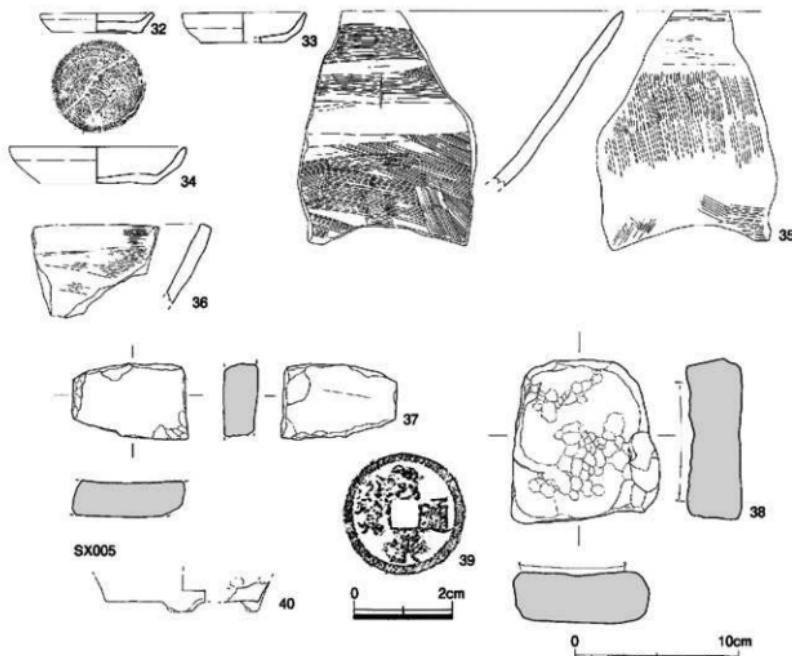


Fig.7 SD001 出土遺物 2 (1/3 - 1/1)

SD001 も水堀状況を示しており、溝規模もほぼ同じであることから、第 22 次調査区の溝と同一の溝の可能性がある。また、溝埋土、中・下層では自然砾石を主体とする石が出土しており、一部は火を受けていた。溝の時期は 15 ~ 16 世紀頃である。

出土遺物 中世の土師器、瓦器、須恵質土器や、中国産青磁・白磁、朝鮮王朝の象嵌青磁、中国銭の永樂通寶、花崗岩などの砾石、溝底からカラス貝など淡水性の貝が出土した。層毎について遺物を説明する。

1 ~ 17 は上層出土。1 ~ 7 は土師器小皿。1・2 は 1/2 片。口径 7.0 cm、器高 1.5 cm を測る。体部調整は回転ヨコナデ。3 は 1/6 片。復元口径 7.6 cm、器高 1.8 cm を測る。器壁は摩滅し調整不明。4 は小片。復元口径 7.7 cm、器高 1.8 cm を測る。器壁はやや摩滅するが、内面はナデ。5 は 1/6 片。復元口径 9.0 cm、器高 1.7 cm を測る。体部調整はヨコナデ。1 ~ 5 の外底部はいずれも回転糸切り。6・7 は底部 2/3 片、1/4 片。6 は復元底径 6.0 cm。7 は復元口径 7.8 cm を測る。調整はいずれも器壁は摩滅するが、7 はナデのようである。8・9 は坏。8 は 1/6 片。復元口径 11.4 cm、器高 2.4 cm を測る。体部調整は回転ヨコナデ、内底はナデ。9 は 1/4 片。体部が開く形態。復元底径 8.4 cm を測る。器壁はやや摩滅するが、回転ヨコナデ。外底部は糸切り。10 は土師質の鍋口縁部小片。口縁部はやや外折し開く。調整は外側ナデ、内面は細かいヨコハケ目。色調は鈍い黄橙色を呈し、胎土は 2 mm 以下の砂粒をやや多く含む。11 は瓦器の小皿 1/6 片。復元口径 7.5 cm、器高

1.5 cmを測る。体部はヘラミガキ。**12**は瓦質土器の火舍又は火鉢の口縁部小片。外面は2条の突帯が付き、その間に雷文のスタンプがある。**13～15**は白磁。**13**は埴類碗底部1/3片。復元底径8.0 cmを測る。高台部はケズリで、疊付きを斜めに切り込む。見込みは輪状に釉剥ぎする。**14**は埴-2b類皿。見込みに草花文らしき文様が入るが、釉が厚くかかり明瞭でない。灰白色の釉がかかるが、底部は無釉で、鉄漿を塗つてあるのか、暗灰黄色を呈す。**15**は青白磁の蓋。直径3.0 cmを測る。灰オリーブ釉がかかるが底部は露胎で、糸切り痕がある。**16**は青磁。口縁が輪花を呈すと思われる盤か皿。内面ヘラ切り文花。オリーブ灰色釉がかかる。**17**は朝鮮王朝の白磁の皿底部。底径4.5 cmを測る。全面施釉であるが、雑なナデ。見込みに砂目跡が残る。

18～23は中層出土。**18～21**は土師器。**18～20**は小皿。**18**は1/4片。復元口径7.4 cm、器高1.7 cmを測る。体部調整は器壁がやや摩滅するがヨコナデ。**19**は底部1/2片。調整は体部内外面回転ヨコナデ。**20**は2/3片。口径10.2 cm、器高2.0 cmを測る。**21**は坏1/4片。復元口径11.4 cm、器高2.2 cmを測る。体部調整は回転ヨコナデ。**18～21**まで外底部回転糸切り。**22**は青磁の皿口縁部小片。光沢を持つ明緑灰色の釉がかかる。内面ヘラ切り文様が入る。15世紀前半頃のもの。**23**は朝鮮王朝の象嵌青磁細片。釉下に櫛状工具による簾状文様を付け、白粘土による象嵌をしている。内面は無施釉であり、瓶や壺などの袋物か。

24～31は下層出土。**24～30**は土師器。**24**は小皿2/3片。復元口径8.6 cm、器高1.2 cmを測る。体部は回転ヨコナデ、外底部は回転糸切り。**25・26**は坏。**25**は1/6片。復元口径11.5 cm、器高2.7 cmを測る。**26**は1/4片。**25・26**いずれも体部調整は回転ヨコナデ。外底部は回転糸切り。**25**は焼成がやや不良で、2 mm以下褐色粒子少量含む。**27～30**は鍋。**27**は1/5片強。復元口径29.6 cmを測る。口縁部は体部から屈折し、僅かに外に開く。外面はナデでハケ目を加え、口縁部には指押え痕が残る。口縁内面はヨコハケ目。外面ススが付着する。色調は外面暗褐色、内面明褐色を呈す。体部外面は使用により一部剥落する。胎土に1 mm内外石英・長石粒子多く混入。**28～30**は口縁部小片。**28・30**はススが付着する。**29**の口唇部は僅かに段を有す。調整は外面ナデとハケ目、内面ヨコハケ目。焼成は**27～30**いずれも良好。**31**は弥生土器底部1/3片。復元底径8.4 cmを測る。器壁は摩滅し調整不明。

32～36は番号を付けて取り上げた遺物。**32・33**は土師器小皿。**32**は完形の小皿で下層出土。口径6.8 cm、器高1.2 cmを測る。胎土は赤色粒子少量含むが精良。**33**は1/4片。復元口径7.4 cm、器高1.8 cmを測る。胎土は2 mm内石英粒子を少量含むが精良。**32・33**の器壁調整は、いずれも体部から内面回転ヨコナデとナデ。外底部回転糸切り。焼成は、**33**はやや不良。**34**は土師器の坏1/2片。復元口径10.6 cm、器高2.2 cmを測る。調整は体部は回転ヨコナデ、外底部回転糸切り。胎土は2 mm内石英・長石粒子、赤色粒子を少量混入。**35・36**は土師器鍋口縁部。**35**は体部から僅かに屈折して外に開く形態。器壁調整は外面タテ、内面ヨコハケ目。色調は外面明赤褐色を呈す。**36**は口縁部がやや肥厚する。調整は内面ヨコハケ目、外面ススが付着する。色調は浅黄橙色を呈す。いずれも胎土は径2 mm内石英・長石・金雲母粒子を含み、焼成は普通。**37・38**は石器。**37**は小型の砥石。長さ6.8 cm、幅4.7 cm、厚さ2.1 cmを測る。上下両面が砥面である。色調は灰黄色を呈し、石材は砂岩。2号土層ベルト上層出土。**38**は叩石。長さ9.9 cm、幅9.0 cm、厚さ3.3 cmを測る。上面には使用による凹凸がある。石材は砂岩。中層出土。**39**は古錢で表面は腐蝕が著しいが、「永樂通寶」と読める。永樂通寶は中国明代で初鑄1408年。直径2.5 cm、重さ1.52 gを測る。

② その他の遺構出土遺物 (Fig.7)

40は基礎擾乱SX005出土の土師器火舍・香炉の底部1/5片。脚が1か所残る。調整はナデ。色調は暗灰黄色を呈す。胎土に1～2 mm白色砂粒多く混入。焼成は普通。

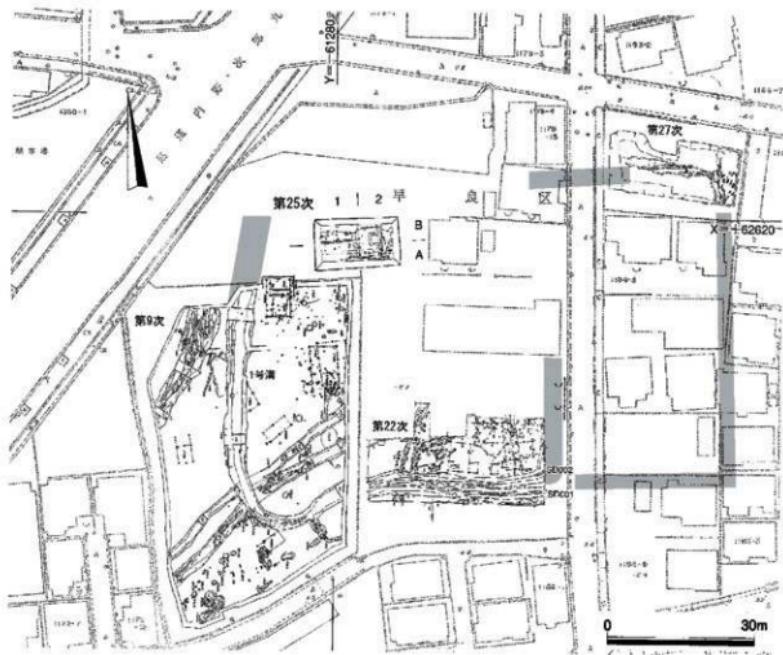


Fig.8 方形館溝配置図 (1/1,000)

3.まとめ

今回の調査で検出した遺構は、中世後期(戦国期)の溝1条のみであった。出土遺物などから見れば15～16世紀に位置づけられるものである。ただ埋土中に近世遺物に含まないことから、16世紀内には埋没していたものと思われる。本調査区から南西側の第9次・22次・25次調査区でも同時期の方形に巡る溝とその内部に建物を伴う館跡が検出されている。特に第22次調査区では調査区東壁で北に直角に曲がる旧期の溝と真っ直ぐ東に延びる新期の溝が検出されている。本調査区で検出した溝はこの新期溝の延長の可能性が強い。同時期とすれば新期の館規模は溝外側で東西約100m、南北約65m程と推定出来る。旧期の館規模は、第25次調査区はまだ館内であろうとの調査所見から、第25次調査区北西側でコーナーを取り東に延び本調査区に繋がり、東西約65m、南北約65m程の規模と推定され、新期の館は旧期の館より1.5倍程度に規模が拡大した可能性が強い。さてこの館の主であるが、福岡市博物館所蔵の「小田部文書」の中に「金丸孫七田地売地券」文明三年(1471)があり、原村に金丸名と金丸孫七という人物がいたことが分かる。金丸名は明治15年の「福岡県史資料第七輯」にあり、また「原遺跡2」(1986)の報告書では第9次・22次・25次調査区あたりに金丸の小字が残り、金丸孫七がこの名主であったと思われる。以上からここで検出した館跡は金丸氏に関わる館の可能性があると指摘しておく。



(1) 第27次調査区遠景（東から）



(2) 調査区全景（西から）

PL. 2



(1) 第1区全景（東から）



(2) 第2区全景（東から）

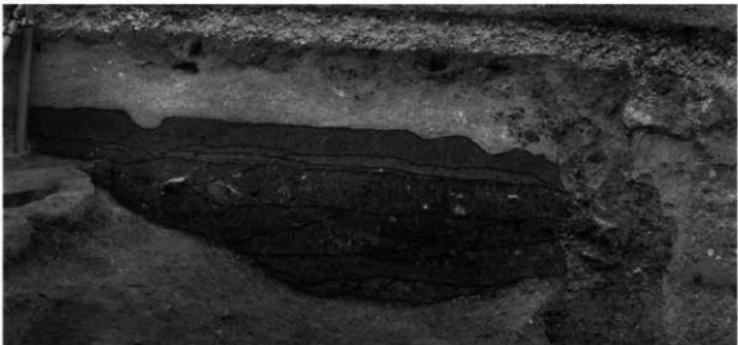


(1) I 区 SD001 (北東から)



(2) II 区 SD001 (西から)

PL. 4



(1) SD001-1号南壁土層（北から）



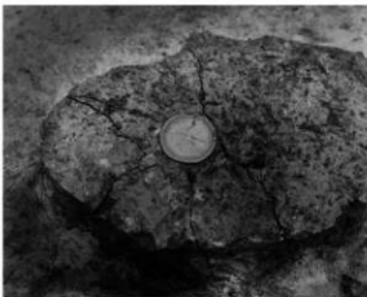
(2) SD001-1号土層（南から）



(3) SD001-2号土層（東から）



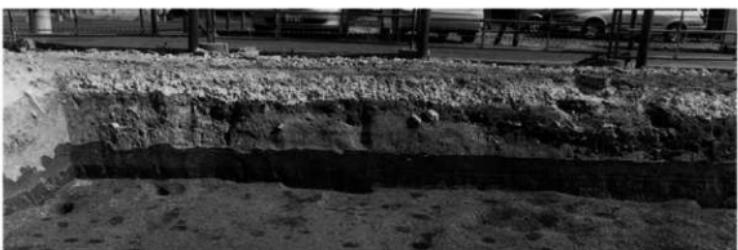
(1) SD001-3区遺物出土状況（西から）



(2) SD001-3区遺物出土状況（南東から）



(3) SD001-3区遺物出土状況（東から）

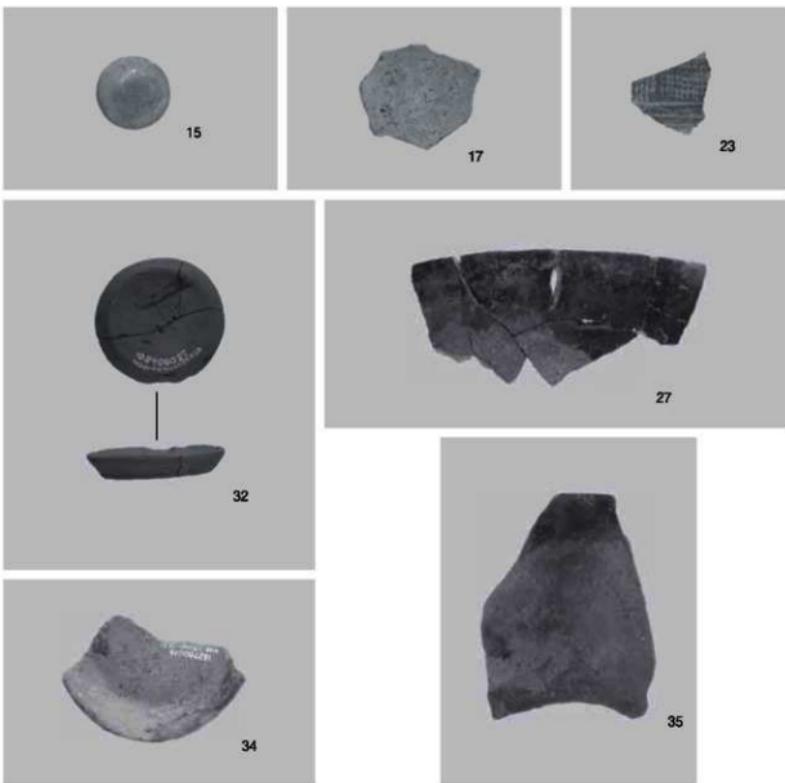


(4) 1区東壁北側土層（西から）

PL. 6



(1) 1 区北壁東側土層（南から）



(2) SD001 出土遺物（縮尺不統一）

報告書抄録

ふりがな	はらいせき							
書名	原遺跡15							
副書名	第27次調査報告							
卷次	15							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	1168							
編著者名	山崎龍雄							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8-1 TEL092-711-4667							
発行年月日	西暦2012年3月16日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はらいせき 原遺跡 第27次調査	ふくおかしさわらくはら 福岡市早良区原七丁目 地内	40130	0311	33度 33分 46秒	130度 20分 26秒	201010008 ~20101130	295	道路拡幅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
原遺跡 第27次調査	館跡	中世	溝・ピット		中世土師器 輸入陶磁器 中国鏡			
要約	調査区は建物基礎による搅乱がひどく、遺構面の残りは良くなかった。遺構面がかろうじて残る部分で戦国時代の堀のコーナー部分を検出した。南西側の第9次・22次・25次調査区で検出されている館の堀の続きであろう。							

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1168集

原遺跡 15

— 第 27 次調査報告 —

平成24年3月16日

発行 福岡市教育委員会
福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 川本印刷株式会社
福岡市博多区板付二丁目5番20号